

自分の意志で考え判断し表現できる生徒 自他を尊重し変化を前向きに捉える生徒 健康で安全な生活の中で挑戦できる生徒



浜頓別町立浜頓別中学校
学校だより 第4号
R8年 6月30日発行
文責・編集・発行：教頭

We will

「ぼのぼの」というマンガに登場する「スナドリネコさん」の言葉に、次のようなものがあります。「なぜなれるのかは問題じゃないよ。なぜなれないのかが問題なんだ。」解釈の仕方は人それぞれかと思いますが、私はこう考えます。

「なぜなれるんだろう（できるんだろう）」と考えると、「できる人」と「できない自分」を比べ、「自分のだめな部分」にばかり目を向け、「自分にはできないや」とマイナスの評価をしがちです。「なぜなれないんだろう（できないんだろう）」と考えると、「自分が改善すべき点」に目を向け、「なりたい自分」に向けた努力に繋がるのでは？と思います。結果、なれない（できない）理由なんて、そうそう無いことに気付くはずです。

「will」という英単語には、未来を表すとともに、「意志」を含みます。自分がどうありたいのか、何をを目指すのかを持つことは、AIにはできません。どういう未来を望むのか、どういう社会を目指すのか、どんな結果を望むのか。それに向けて何をするのか。子どもたちだけでなく、大人である私たちが試されているのかもしれない。「〇〇したい」と意志を持つことが、人間の強みではないでしょうか。



↑ AI生成の
スナドリネコさん

宿泊研修 in わっかない

令和8年6月18日（木）～19日（金）

Tジョイ～緑スポーツパーク～少年自然の家



時間	内容	備考
～8:15	登校	
8:15～8:25	出発式→バス出発	司会：松果 挨拶：晴希
8:25～10:20	バス移動	
10:20～10:40	西條で昼食・朝食を購入	クーラーボックスで保管
10:40～11:00	バス移動	
11:00～12:30	Tジョイ館内で活動	挨拶：松果
12:30～12:45	バス移動	
12:45～13:15	みどりスポーツパーク到着、昼食	会議室を借用予定
13:15～15:15	アーチェリー体験	2グループに分かれる 挨拶：凛奈
15:15～15:30	バス移動	
15:40	入所式・準備	司会：凛奈 挨拶：美大 美大挨拶→施設長挨拶 指導利用指導員 到着入
16:00～18:00	炊事・夕食	5グループに分かれる。 米は飯盒で炊く。
18:30～20:30	入浴	館内温泉風呂を利用
20:30～21:30	学園レク(ナイトバク)	
22:00	就寝(女子1部屋、男子1部屋)	女子生徒：はら5 男子生徒：はまなす7 女性教員：はら2 男性教員：はまなす2
6:30	起床	
7:30～8:00	朝食	冷蔵庫を借りて保管
8:00～8:30	整理整頓・点検	
8:30～10:00	文化創作(ニュースポーツ)体験	
10:00～12:45	食体験(ヒザツクリ)・昼食	雨天時、屋内で実施可 2人組に分かれて活動。
13:00	退所式	司会：美大 挨拶：晴希 晴希挨拶→施設長挨拶
13:00～15:00	バス移動	
15:00～15:15	学校前・帰着式	
15:15～15:30	帰りの会・下校	SB16:05



どう生き延びるか

先日、東京都の小学校で痛ましい火事が発生しました。当時の状況において、窓からひさしに逃げるという選択をしたように、私たちも、訓練でありながらも「生き延びるためにどう判断し、行動するか」を念頭に置いて避難訓練をする必要がありそうです。改めて、本校の校舎



がどのようなつくりになっているのか、考えを巡らせてみたいと思います。

キャリア教育講演会

6月24日(水)

には、株式会社セコマの取締役会長でいらっしゃる丸谷様を講師に迎え、キャリア教育講演会が浜頓別高校を会場に行われました。講演の中で丸谷様は、「でき



浜中HPはこちら



ないと諦めるのは簡単。どうやったらできるのかを前向きに考えることが大事だ。」「一つのことをやり通す力、『粘着力』が大事だ。」とおっしゃられました。

Good Loser

校長 明石 貴宣

夏至も過ぎ、間もなく夏本番？体育祭を終え、各教科では単元テストが行われ、2年生は宿泊研修を終え、3年生は修学旅行へ、1年生も遠足へと慌ただしくも充実した毎日をご過ごす浜中生たち。もう少し暖かくなれば（この原稿を書いている日は気温9℃!）いいのですが、生徒はおかまいなしに元気です。

さて、6月7日の陸上大会を皮切りに、宗谷地方中体連大会や吹奏楽コンクールなど、中学生を対象とした大会が数多く実施されます。浜頓別はクラブチームでの参加ですが、本校の生徒の活躍はもちろん応援していますし、7月11日の宗谷地区中体連大会ではソフトテニスの当番校として大会運営も行います。クラブ活動をしている3年生にとっては最後の夏を迎えます。近年はクラブ化や各競技団体の取組もあって、中体連敗退＝引退というわけではなくなってきたので、保護者の皆さんの時代とはだいぶ様変わりしていると思います。とはいえ、いつかは活動に区切りをつける日が来ます。

今回のタイトル Good Loser（潔い敗北者）は、2022年に東北勢で初めて甲子園優勝を果たした仙台育英高校野球部の須江監督が、翌年の決勝戦で慶應義塾高校に敗れた時の試合後のコメントで語った言葉です。「負けた時に人間の価値が出るからグッドルーザーであって県大会の初戦の前の日に、負けた時に全力で相手に拍手をしてほしいって言ったらちゃんと返事をしてくれて。」というコメントとともに、仙台育英の選手たちが慶応の優勝インタビューに拍手する姿も話題となりました。大会前に負ける話をするのも勇気がいると思いますが、真剣に優勝を目指してきたからこそ価値のあることなのだと思います。

もちろん結果が全てではありません。スポーツや文化活動を楽しむことも大事なことですし、仲間と共に過ごした時間そのものに大きな価値があります。しかし、真剣に何かを目指し結果を求めるからこそ、そこに価値あるプロセスが生まれます。結果が存在しなければプロセスも存在しません。

クラブ活動に参加している生徒、またそれ以外でも何かに挑戦している生徒にはぜひ、今のプロセスや費やした時間が、自分にとってかけがえのない価値あるものになってほしいと思います。